



感謝状を授与された「県立唐津南高校」のみなさん

「松露」の復活を目指す  
指標とされるキノコ  
結成し、健全な松原の  
ため、04年に「松露プ  
ロジェクトチーム」を  
再生・保全活動を行う  
状況に陥っていた松原の  
ため、04年に「松露プ  
ロジェクトチーム」を  
再生・保全活動を行う  
状況に陥っていた松原の

2015年度の「国民の森林づくり推進功労者」に対する、林  
野庁長官感謝状の贈呈式を、6月16日に佐賀県立唐津南高等学校  
において行いました。

当日は、ホームルームの時間  
をいただき、教室において江藤  
博文教頭、松露プロジェクトメ  
ンバーの生徒などが出席し、川  
部静也佐賀森林管理署長より木  
製の林野庁長官感謝状が伝達贈  
呈されました。

また、贈呈式の後には当署職  
員から、国有林や森林管理署の  
役割及び虹の松原において行っ  
ている保全活動などについて、  
レクチャーを行い国有林のPR  
も行いました。

## 唐津南高校へ感謝状贈呈 国民の森林づくり推進功労者に対する長官感謝状の贈呈



感謝状贈呈の様子

した取り組みを行ってきました。  
その活動は、全校ボランティア  
による松葉掻き、小学生に対  
する保全活動の指導、新聞作成  
による広報活動、松葉を活用し  
た屋上緑化、東日本大震災では  
被害に遭った高田松原への苗木  
送付など多岐にわたり、08年  
には佐賀森林管理署と「遊々の森」  
協定を締結、名称を「松南の森」  
とし専用の活動フィールドにお  
いて、植生の試験区設定や広葉  
樹の伐採などを行っており、国  
有林を含めたその活動は高く評  
価され、今回、感謝状を授与さ  
れたものです。

国民の森林づくり推進功労者  
に対する長官感謝状の授与につ



贈呈された木製の感謝状

いは、国有林野における国民  
の森林づくりの推進に功労のあ  
った者に対して、感謝の意を表し  
、もって国民に開かれた「国民の  
森林」としての国有林野の管理  
経営を一層推進する観点から、  
①森林づくりに功労のあった者  
②森林環境保護に功績のあった  
者  
③国産材利用推進に功労のあ  
った者  
の贈呈基準に該当する個人又は  
団体に対し、森林管理局長が被  
表彰者を選考し、林野庁長官に  
推薦するもので、15年度の推薦  
者として唐津南高等学校を選考・  
推薦し、今回の感謝状贈呈とな  
ったものです。

なお、15年度は唐津南高等学  
校を含め、全国で7つの団体が  
感謝状を授与されました。  
(担当)総務課・佐賀署



# 国有林材供給調整検討委員会を開催

※現状では供給調整を行うことは要しないとの結論

6月16日、本年度第1回目の「国有林材供給調整検討委員会」を開きました。

各委員がそれぞれの専門分野からの意見を述べあい、「現状では供給調整を行うことは要しない」との結果になりました。委員からの意見は次のとおりです。

○パイオマスや輸出関連で原木は増産の流れにある。今後は価格の長期契約を結び、伐採と再生産のバランスを考えて安定的に出すという方向で進めていく時期にきている。

○パイオマス中心の木材生産により低質材の価格は安定し、優良材や大径材の価格は落ち込ん



委員会の様子

でいる。需要開拓により価格差を作らなければならぬ。

○原木の出材は例年に比べ補助金や季節要因による変動が少なく感じる。パイオマス需要は峠を越した感があり、原木調達で逼迫した話しは聞こえてこない。最近では2×4用材の集荷が増加。製品の動きは、例年と違い年末に向けてダラダラいくのでは。供給過多に注視が必要であるが、供給調整は不要。

○地震による国道の落石などで原木輸送に時間とコストが掛かるところが出てくる。出材は順調だが、梅雨の長雨で山地の二次被害が出ないか心配。ホームセンター系の製材需要が増えているが、消費者への安心感付与といった面もある。原木価格は横ばいで推移しており、供給調整は不要である。

○為替が円高となっており、ホワイトウッドなどの動向が心配。原木価格はこれまで下げ傾向にあったが、梅雨入りで出材が減り、わずかに値戻しがあった。梅雨時期で自然と調整がされるのでは。

○地震の影響、関連工場の被災生産調整及び増税延期を踏まえても、台板の動向は現状で推移

するのではないかと。昨年4月から各地でパイオマス発電所の稼働が相次いでいるが、原木の不足感はない。国有林材は通常通り供給してほしい。

○チップ用原木の受け入れについて、地震による工場被害は少なかったが、施設点検による工場停止が何度もあり、通常の受け入れとなったのは5月下旬からであった。梅雨入りしても出材が順調であり、供給のオーバーフローが懸念されるが、国有林材の供給調整は必要ない。などの意見が出されました。(担当)地域木材情報分析官

【長崎森林管理署】当署では、「NPO法人奥雲仙の自然を守る会」からの依頼を受け、5月7日に長崎大学環境科学部野外フィールド研修に職員が講師として出席しました。

午前中の講義では、学生たちに対して、森林の役割や署の仕事内容などを、分かりやすく説明し、その後は、主催者の指導のもと、お饅頭作りとシイタケ菌の種駒打ち作業を行いました。午後からは、現場に出て、ミヤマキリシマ保全活動として下刈りなどの作業を行いました。研修を終え、参加した学生からは「貴重な体験だった、今後

## フィールド研修へ講師派遣

もこういった活動に参加したい」という声がかかれ、学生たちにも、有意義な研修となりました。今後も、学生の皆さんには実際に野外に出て、五感で学ぶという体験を積極的に行ってもらいたいと思います。



職員の講義を聴く学生

## 大始良中学生が職場体験

【大隅森林管理署】当署では、5月24日と25日の2日間にわたり、鹿屋市立大始良中学校3年生の生徒3人に対し、職場体験学習を行いました。

1日目は、署内で森林の多面的機能と生活の関わりや林業の役割などを説明した後、スギを植栽した直後、数年及び数十年の造林地、鹿児島県照葉樹の森及び木材市場の見学を行いました。生徒たちは、造林地の苗木が40～50年後には伐採され、木材として利用されるという説明に驚き、木材市場では、丸太の自

動選別機や積み込み作業中のトラックの様子に興味深く見入っていました。

2日目は、治山現場や海岸林を見学しながら治山事業と林地保全の重要性を説明し、実際に業務で行うレベル測量やコンクリートの強度試験等を体験してもらいました。

2日間の体験学習を終えた生徒たちからは、「森林の中に初めて入り、傾斜が急で大変な場所だと思ったけど、山や河川の保全によって災害を防止してくれていることがわかった」、「レベル測量などを初めて体験できてよかった」などの感想が聞かれ、充実した体験学習とすることができました。

当署の業務を体験することを通じて、森林や林業に対する当署の役割に加え、それらと普段の暮らしとの関わりを伝える格好の機会となりました。



レベル測量を体験する中学生



## 防災対策現地視察へ参加

【長崎森林管理署】島原市主催による「防災対策現地視察」が5月26日行われました。

この現地視察は、梅雨などの災害時期を目前にひかえ、災害防止対策に万全を期すため、毎年この時期におこなわれており今回は、防災関係8機関から52人の参加があり、当署からも6人が参加しました。

当日は、晴天の下、水防（高潮）対策事業、溶岩ドーム崩落（砂防）事業、眉山治山対策事



現地視察の様子

業の現地視察が行われ、当署からは野田祐治治山技術官より、熊本地震後の眉山の状況や治山事業の実施状況、また、今後の予定などの説明を行いました。

## 道路清掃活動を実施

【沖縄森林管理署】4月27日に開かれた、「やんばる地域ロードキル発生防止に関する連絡会議」において、県道70号線における交通事故防止重点区間が、1・8キロから3・8キロに拡張されることが決定されました。その取り組みの一つとして、

今回の現地視察を通して、各防災関係機関の共通認識を高めるとともに、災害発生時の迅速な連携と対応について、改めて確認することができました。

6月はヤンバルクイナの交通事故が頻発する時期で、交通事故の発生する原因は、道路側溝に溜まった落葉にミミスガが発生し、そこを餌場としてヤンバルクイナが利用すること、また道路脇の草むらからの急な飛び出しにあります。今後も、清掃作業を実施し、



清掃活動に汗を流した参加者



現在、大隅半島の山々を探訪し、ふるさとの山や川の自然を元気にする「ふるさと」元気風ネットの活動を主宰し、地元の人々や有志の団体と連携して、



坂田 勝さん

森林保護や環境保全士のボランティアとして活動しています。これまで志布志湾岸国有林の苗木植樹会に参加したり、苗木の生育状況や樹林内の風景を写真に撮り、記録として残す活動を行っております。

## 国有林モニター活動への期待と 国有林「保護・復元・活用」へのアプローチ

今回、自分自身の活動の学びとネットワークを広げるために、平成28年度国有林モニターに応募する機会に恵まれ、林野庁国有林の管理経営に関するモニターの委任を受けました。

国有林モニターとして、国有林に期待することは、「生物多様性保全と地域づくり」を目標とした国有林の「保護・復元・活用」で、これは、自分自身の活動のテーマであり、アプローチでもあります。

国有林モニターとして、国有林に期待することは、「生物多様性保全と地域づくり」を目標とした国有林の「保護・復元・活用」で、これは、自分自身の活動のテーマであり、アプローチでもあります。

大隅半島の山々は、照葉樹に覆われた豊かな自然に恵まれた地域ですが、盗掘などによる固有種や貴重植物の減少等、生態系破壊につながる現状を目にします。

響で、立ち枯れが目立つようになってきています。これら国有林に対する保護と復元の願いが植栽活動等のボランティア活動へのアプローチになれば幸いです。

また、大隅半島国有林の高齢ふれあいの森には、推定樹齢250年の林野庁の「森の巨人たち100選」に選ばれたスダジイの巨木があり、近くには御岳を中心とする高隈山系の山々や大隅自然休養林があります。これら身近にある素晴らしい国有林の財産が森林教室や登山・ハイキングなどの健康作りやレクリエーションの場として、もっと活用されることを期待します。今後、国有林モニター活動や広報誌の拝読などを通じて国有林に対する認識を深め、微力ながら今続いている活動の糧にしたいと思えます。

（鹿児島県鹿屋市在住）



平成28年度国家公務員安全週間  
**「交通法令講習」・「交通安全講習会」を実施**

7月5日、安全週間中の行事として、局職員を対象に「交通法令講習」と「交通安全講習会」を局大会議室で開き、多数の職員が参加しました。

午前中の交通法令講習会では、熊本北警察署交通第一課松永仁幸企画係長を講師に招き、交通事故防止のポイントなどについて講話いただきました。

講話では、交通事故の多い時間帯や事故原因、高齢者に多い事故形態、交差点での事故状況や主な要因などについて、事例を交えて、また、ドライブレコーダーの映像による事故の様子は、実際に起こった事故が映像で流れ、その事故に対する注意点などを具体的に話していただ



講習を聴く職員



講師の松永氏

最後に、運転中は気持ちにゆとりを持って車間時間を3〜4秒つくる、慣れと油断をなくし、危険を予測しながら安全運転を、との注意点があり講話を終りました。

午後は、一般社団法人日本自動車連盟（JAF）熊本支部より、渡邊敬太氏を講師に招き、交通安全講習会を開き、車のトラブル、交通事故の発生と原因、危険予知などについて事例を交えながら、実際に故障や事故への対応を行っている視点からの話がありました。

講習会では、車のトラブルでは、原因の約7割がドライバーの点検不足などによるミスによるもので、日常点検が重要である



講師の渡邊氏

ること、見通しの悪い交差点では多段停車・多段発進が事故防止に繋がるなどの話や、動画を使った危険予知のトレーニングなども行いました。

最後に、車の日常点検を行うルールとマナーを守る、常に危険予知を行うなどの、自分で出来る事故防止についてまとめがあり講習会を終りました。

今回の、交通法令講習及び交通安全講習会を受講した職員一人ひとりが、ゆとりを持った運転に心がけ、交通事故ゼロに向け気持ちを新たにしたい講習会となりました。

（担当：総務課）

**三つのプログラムで森林教室**

【都城支署】遅霧国有林30林班において、三股町立三股西小学校4年生1つ5人に「樹木調べ・丸太切り・収穫調査」の三つのプログラムで森林教室を行いました。

樹木調べでは、広葉樹の葉などの特徴の違いを、目で見て手で触れながら比べ、答え合わせでは正解の判定に歓声をあげていました。

丸太切り体験では、周りの声援を一身に受けた児童たちは、懸命に鋸を引き、切り終えた達成感に満足して、切り終わった丸太の匂いを嗅いだり、周りと



樹高測定に奮闘する児童

比べたりしては喜び、大事に持ち帰っていました。

収穫調査では、杉の木の高さを測るため、二等辺三角定規の先端と立木の先端が合った位置から距離を測り、高さを導くという体験の中で、三角定規を真剣にのぞき込み、簡単に高さを測れることに驚きの声を上げていました。

この森林教室は、児童の森林や自然に関する体験を通じた学習の課題作りを目的として、同小より「総合的な学習の時間」の一環として当支署へ要請があったもので、本年度13年目となりました。

当支署では、今後もこの活動に積極的に協力を行いながら、森林の役割・自然との関わりについての知識や理解をより深めてもらえるよう取り組んでいくこととしています。

また、当日の様子は、ラジオ、テレビに報じられるなど、森林

・林業の重要性などをPRすることもできました。

**シカ被害対策協定を締結**

【熊本南部森林管理署】6月8日、湯前町役場において湯前町、熊本県猟友会上球磨支部湯前分会と当署の三者によりシカ被害対策協定を締結しました。

調印式では町長から戸籍を持たないシカを民国が連携して捕獲を行うことは有意義なことであり、国有林の取り組みに感謝すると表明されました。

また、猟友会会長からは捕獲を行う際は、会員及び国有林内で働く一般の方たちの安全確保に最善を期して円滑に実行したいとの考えを述べられました。本協定によりシカ捕獲が着実に推進され農林被害が軽減されるよう三者が連携して取り組みます。



調印式を終えた協定3者



## 沖縄県植樹祭へ参加

【沖縄県森林管理署】沖縄県では、家庭・職場・学校・自治会など地域において、「一島一森（いちしまいちむい）づくり」に積極的に取り組み、県民総ぐるみの全島緑化県民運動を展開しています。

今年も、長年の夢であった伊良部大橋が昨年1月に開通した宮古島市伊良部カントリーパークにおいて、5月21日、「夢実現 緑の絆 心躍る希望の島」を大会テーマに、植樹祭が開かれました。当日は、梅雨の時期でもあり天候が心配されていましたが、雨が降ることもなく、絶好の植樹祭日和となりました。植樹祭へは、当署の職員も含め、約1000人の方が参加し、ヤブツバキ・クロヨナ・フクギの苗木1000本を心を込めて植樹しました。



植樹に汗を流す参加者

## OJTで安全指導

【熊本南部森林管理署】昨年の4月に発生した当署職員の刃物による公務災害への対応を含め、公用車の安全運転確保やタイヤ交換などについて、当署の若い職員に対し、OJTを活用した安全指導を行いました。

最初に、刃物の取り扱いに関する通達確認の後、刃物の基本的な取り扱いや構造、現場で使用する際の基本動作及び刃物の研ぎ方について論理的な説明を行い、刃物の研ぎ方については、熟練者から安全で効率的な姿勢による方法も伝授されました。

次に、実践演習では、林業で最も災害が多い伐倒作業において、「受口」や「追口」の位置、「つるを残す意味」などについて、実際に伐倒作業を行うことにより、基本作業・動作の重要性の認識、さらには「かかり木」となった場合の安全で基本的な対処方法などについて認識を深めました。

最後に、実際の現場でタイヤがパンクした場合の交換作業を行い、まず、作業を行う安全で安定した場所の選定、交換用タイヤや工具類がどこに収納されているかなどについて、日頃乗り慣れている車両で確認しましたが、工具の収納場所が判らな



実践演習を行う職員

い人や、タイヤ1本の重さがかかり重く、タイヤの装着時には思うように交換用タイヤが装着できない人もいました。

本年最初となる若い職員への刃物の取扱、車両の安全運転などについての安全指導となりましたが、引き続き安全確保を目的にこの他の作業種における作業・動作を指導して行くとともに、各種法令などに基づく作業の手順や基本的な遵守事項についても併せて指導して行くこととしていきます。

## 現地視察研修会を受け入れ

【宮崎北部森林管理署】5月23日、(一社)長崎県林業協会の依頼により、当署管内において「林業成長産業化プロジェクト検討会」の会員21人を対象に、現地視察研修を行いました。

本検討会は、持続可能な森林整備に必要な担い手を確保することにより、事業体の育成を図ることを目的に、長崎県職員、林業公社、森林組合、林業事業対等で構成されています。

冒頭、工藤孝署長より林業の成長産業化に向けた取り組みなどを含めた挨拶の後、実行済と実行中の誘導伐箇所において一貫作業システムなどの説明を行い、意見交換会を実施しました。実行中の事業体職員を交えた意見交換会では、予定時間をオーバーするほどの活発な意見・質問があり、有意義な研修会となりました。



職員の説明に聞き入る参加者

## 食フェスタへ新企画で参加

【宮崎森林管理署】5月14日、宮崎市内「生目の杜運動公園」において、農林水産物の地場産



大盛況の宮崎署ブース

品を広く紹介する「食フェスタ in みやざき2016」(食フェスタ in みやざき実行委員会主催)が開かれました。

当署からは、恒例となっている、木工体験での木製キーホルダー(もっくん)及び表札づくりに加え、クイズ形式の森林教室、職員手作りのオリジナル絵はぎの配布、森林を背景に森林官のコスチュームで撮影できるフォトコーナーを設置するなど、新企画を取り入れ参加しました。

当署のブースには、多くの親子連れが訪れ、子供たちは目を輝かせながら作品づくりやクイズを楽しんでいました。

この取り組みを通じて、森林や木材への理解を深めていただき、森林管理署を身近に感じてもらった。貴重な一日となりました。



# 第二回森のセミナーを開催

【熊本南部森林管理署】当署会議室において地域住民など約20人が参加し、本年度第一回「森のセミナー」を開きました。

講師に環境省希少野生動物植物種保存推進員の乙益正隆氏を迎え、「人吉球磨地方の花」について講話があり、花が咲き始めたときのアワやマメのとき時など、ユーモアを交えた花にまつわる話を参加者は熱心に聞き入っていました。

また、当署職員による「シカ被害の現状と対策」、共催者である球磨地域振興局の職員から「人吉球磨地域の森林・林業等」についても説明しました。

午後には、乙益先生の指導の



ナンビイノデの胞子を採集する参加者

下、シカによる食害で絶滅の恐れがあるシダ類の「ナンビイノデ」の胞子を採集し再生する作業を実施しました。

今後は、参加者が持ち帰ったナンビイノデを育て、国有林へ移植し再生することとしています。

## 幼稚園で森林教室

【宮崎南部森林管理署】当署では、日南市飢肥の日南幼稚園からの依頼により、恒例となった森林教室を開きました。当幼稚園では、森林や緑との



九州では海岸近く、暖地の山地に普通に見られます。葉は、互生、枝端に集まります。革質で、倒皮針形。葉先は鋭頭で、全縁又は上半に粗鋸歯があり、葉下面は淡緑色で褐色毛を密生します。

葉は輪生状に出ています。真上から観察すると、大小の葉で構成され、葉が重複しないようになっている。日光を少しでも多く受けるための工夫と考えられます。

ヤマビワの材は堅いことから昔はカサに、今でも鎌の柄など

ふれあい、自然の大切さを教える環境教育に力を入れており、当日は、3・4・5歳児の計66人を対象に、日南地方の山に住んでいる動物や昆虫、鳥などをクイズ形式の紙芝居で知ってもらい、その後に行った、空飛ぶ種子の紙細工では、園児たちは悪戦苦闘しながらも種子を作りあげ、みんな楽しく飛ばしていました。

教室内には、園児たちの賑やかな声が響き渡り、終始和やかな雰囲気の中森林教室は進み、最後に、園児からお礼の言葉があり、次回も来園することを約束

に使用されています。伊勢神宮では、神様に供えものの煮炊きに使うための火起こしは、ヤマビワとヒノキを摩擦させて発火させているそうです。

## 104 ヤマビワ (アワブキ科)

ヤマビワの名前は、びわに葉が似ていることから付けられており、果実は約6ミリの小さい球形で熟すと赤くなりますが後に黒褐色となり、ビワの果実の連想はできません。

花は6月頃、頂生の大きい円錐花序で咲き、白色で花の少ない時期ですので樹木園でも目立ちます



空飛ぶ種子づくりの様子

束して無事終了しました。



熊本地震から3ヶ月が過ぎようとしています。もう3ヶ月、まだ3ヶ月と、それぞれの立場でとらえ方は様々だとは思いますが、周りでは少しずつではありますが、落ち着きを取り戻しつつあるようです。▼地震前の状態に戻るには、まだまだ時間がかかると思いますが、根を詰めず「出来たしこ」で進んでいきましょう▼地震からは3ヶ月ですが、今年はまだ半年が過ぎてしまいましたが、7月期は1日7日を安全週間とし、各署等におかれても安全対策に係る各種行事が行われたことと思います▼当局では6月に第1号の災害が発生し、昨年度と同じ件数となっていますが、安全週間に機に改めて安全対策に取り組み、これ以上の災害が発生しないよう努めましょう▼また、7・8月期は「蜂刺され災害防止対策強化期間」となっています。防蜂網・防蜂手袋など、保護員の完全着用や自動注射器の携行など、蜂刺され防止対策を確実に実施してください▼暑い中での業務となりますが、安全対策を十分にとり、これからのセロ炎を達成しましょう。(次)